

# FUKUOKA INNOVATION SIDE TENJIN

vol  
03



引地耕太 (Creative Director)

井上潤吾 (ポストン・コンサルティング・グループ)

堀ナナ (Tensor Energy)

須賀大介 (SALT)



## 天神ワーカーたちが語る QOL進化論



## CASE 01. 引地 耕太

東京ではワーカーホリックな人生を、  
福岡では家族と過ごす人生を実現

## 東京-福岡間の新幹線は

## 誰にも邪魔されない“動くオフィス”

僕は現在、東京と福岡で二拠点生活をしています。きっかけは、コロナ禍でワークスタイルが半ば強制的に変化し、必ずしも東京にいる必要がなくなったこと。僕と妻の地元がある九州への移住を検討し、中でも交通の便が良い福岡に家族で引っ越しました。

二拠点生活で大きく変わったのは仕事と暮らしのスタイルです。東京では、人とのコミュニケーションを主体にしたハードワークをこなし、福岡では家族と過ごす時間を大切にしながら、思考が必要な仕事に集中する。さらに、福岡-東京間の移動に新幹線を活用することで、誰にも邪魔されない“動くオフィス”も手に入れました。

福岡が思考する時間に向いている理由は、都市と自然が近くにあるからです。街中に空港がある福岡はビルの高さ制限によって空が広く、天神から10分も歩けば広大な大濠公園があり、さらに足を延ばせば海に出ます。都会的な生活をしながら自然を身近に感じられるのは福岡の魅力だと思っています。

また、新しいことを受け入れるカルチャーや、誰に対しても開かれたコミュニティがあるのは仕事面でも大きなメリットにつながっています。ヒューマンスケールに適した程よい距離感で、つながりたい人と簡単につながる街は、案外珍しいかもしれません。

## 「仕事と家族」

## どちらも譲らない人生を実現

二拠点生活によって家族への接し方も変わりました。僕は寝る時間以外ずっと仕事をしているようなワーカーホリックで、東京だけに拠点を置いていた頃は家庭と仕事のバランスを取るのが難しかったんですね。仕事に没頭して気づくと夜中になることが多く、深夜の帰宅で家族を起こしてしまうのが申し訳なかった。

それが今は、東京でのワーカーホリックな過ごし方はそのままに、福岡では家族と過ごす時

間を最優先にできるようになりました。子どもと一緒に何かを体験する時間を大切にできるようになり、仕事に没頭したい人生と家族と過ごす人生の両方を楽しめています。

## 人間と自然とテクノロジーの調和

## 福岡は創造的な人を惹きつける

クリエイターとして福岡の街を見渡すと、「人間と自然とテクノロジー」のバランスが取れていることを実感します。福岡には人間の創造性を発揮できる環境と、海や山などの自然、イノ

## Creative Director / Art Director

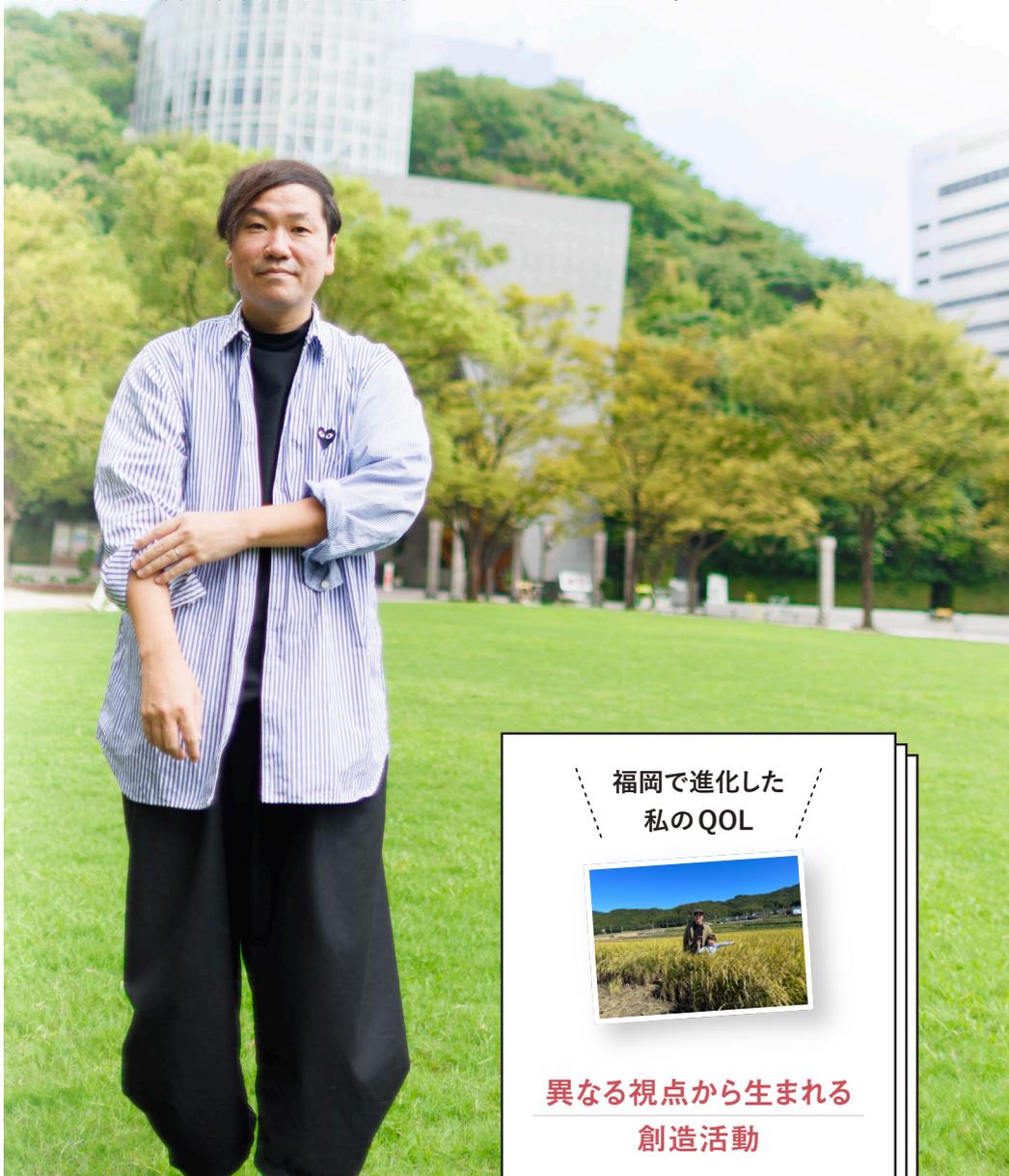
## 引地 耕太

東京、福岡を拠点に活動。NIKEやBOSE、TOYO TAなどのクリエイティブから、シンガポール「Magical Shores」のアート制作、歌舞伎座 市川海老蔵出演「通し狂言 源氏物語」の映像演出、テクノロジー×スポーツ「CYBER SPORTS」のeスポーツ開発など活動は多岐に渡る。東京2020オリンピック・パラリンピック、大阪・関西万博のクリエイティブディレクター・アートディレクター。

ベーティブなスタートアップや人が集積しやすい社会システム（テクノロジー）という創造的な人を惹きつけるファクターがそろっています。

世界的に見ても競争力の高いこの環境が心地よいライフスタイルとクリエイティブな創造活動の両方を実現させてくれるのです。

東京と福岡、都市と自然を行き来することで獲得した新しい視点は、間違いなく僕の仕事に良い影響をもたらしています。イノベーションは異なる概念を組み合わせることで生まれるもの。今後も複数の視点を持つことで進化し続けたいと思っています。

福岡で進化した  
私のQOL異なる視点から生まれる  
創造活動

CASE 02. 井上 潤吾

人間本来の暮らしは福岡にあり。  
人・食・自然に恵まれた環境に  
足りないのは産業への投資

文化度は高いが、人の密集度は低い  
恵まれた住環境でQOLは急上昇

私は福岡出身で、年に3~4回は九州・アジア経営塾(KAIL)の講師として、それ以外にも2カ月に1回は仕事で福岡を訪れていました。現在は天神ビジネスセンターにBCG福岡オフィスを構え、東京と福岡を行き来する生活を送っています。

福岡の良さは、文化度が高い割に人が密集していないことです。演劇やスポーツ、コンサートなど何かしらのイベントが頻繁に開催されているエネルギッシュな都市でありつつ、東京より人が少ない。その上、電車で30分も移動すれば自然に触られます。

実際、私も休日はイカ釣りやゴルフ、海、山、温泉など多様なアクティビティを堪能していますし、大型バイクでツーリングを楽しむ友人のSNS投稿などを見るうちに、私も知らない世界を体験しようと行動範囲が広がりました。今では福岡を拠点に鹿児島や沖縄、宮崎、広島などにも足を運んでいます。

天神は地下でつながる  
地下街の想像以上の利便性

天神で働くメリットは、食事やショッピングの利便性が高いことです。オフィスから地下に下りれば地下街が広がっていますし、地下街は複数の商業施設に直結しています。昼休みや仕事帰りに、必要なものをすぐ買えるという利便性は東京にもなかなかありません。

加えて、地下鉄天神駅から福岡空港までは約10分のため、東京-福岡間の行き来が苦になりません。移動時間の短さと国内外へのアクセスの良さは国内随一ではないでしょうか。

みんなのQOLを高めることで  
自分のQOLはさらに高まる

福岡はスタートアップやクリエイティブなプレイヤーが多いものの、投資家が少ないのが課題です。

投資家やVCが多く、プレイヤーの集まりやすいアメリカ西海岸のような状況を生み出すには、

ボストン・コンサルティング・グループ  
マネージング・ディレクター &  
シニア・パートナー  
井上 潤吾

日本電信電話株式会社(NTT)を経てBCGに入社。BCGアムステルダム・オフィスの勤務等を経験し、2022年、天神ビジネスセンターに福岡オフィスを開設。BCGリスク・コンプライアンスグループの日本リーダー。テクノロジー&デジタルアドバンテッジグループ、およびテクノロジー・メディア・通信グループのコアメンバー。



東京を中心に活動する大企業の進出といった何かしらの起爆剤が必要。私自身も、福岡・九州をもっと元気にするために、福岡で暮らす一人ひとりの成長に貢献したいと考えています。

福岡は、教育やスポーツ、文化、自然、食などあらゆる面がとても豊かで、想像以上に幸せな人生を送れる土壌があります。だからこそ、産業をより活性化させて魅力的な仕事にあふれる街にしたい。すでに高い次元にあるみんなのQOLをより高めることで、私自身のQOLも高めていけたらうれしいです。

**福岡で  
進化した  
私のQOL**



**シンク・グローバル、  
アクト・ローカル  
人の幸せを自分の幸せ  
だと思える人生へ**

## CASE 03. 堀 ナナ

# 会議は海辺や森林で。 都会と自然のメリハリが 事業成長と暮らしの充実を実現

## 事業もプライベートも1年で充実

### 人とのつながりやすさが鍵に

私は8年前に福岡へ移住し、職場と家、保育園、小学校などが30分圏内にある暮らしを実現させています。福岡を移住先に選んだのは、弊社の事業を成長させられる環境が九州にあり、中でも各県へのアクセスが良好かつスタートアップを応援する土壌があったからです。

実際、スタートアップや地場企業、行政、大学との距離が非常に近く、移住から1年後には皆さんと知り合いになっていましたし、それが事業成長を後押ししました。何の信頼もなかった私たちが驚くようなスピードで事業を成長させられたのは、行政をはじめとした多くの支援

をいただけたから。とても感謝しています。

生活面においても、子どもたちが所属したスポーツチームのコミュニティに溶け込むことで、地元の人たちとも顔なじみになりました。縁もゆかりもない福岡でしたが、人とのつながりやすさに助けられています。

## 打ち合わせは、砂浜や森林で

### 天神には都市と自然のメリハリがある

天神で働く魅力は自然との距離が近いことです。天神からバスで15分の距離に「シーサイドもち海浜公園」という海水浴場があり、メンバーと砂浜を散歩しながら話し合いをすることもありますし、360度緑に囲まれた場所中長

## Tensor Energy 株式会社

### ファウンダー共同代表

#### 堀 ナナ

2011年に戦略コンサルタントとして再生可能エネルギー業界へ。蓄電池や太陽光発電、電力のプロジェクトを手がけ、再エネ発電事業会社の立ち上げに参画。事業開発チームをリードし、案件組成から開発、建設、運転、管理を一気通貫でグローバルに行う体制を構築。持続可能なエネルギーを必要ときに必要なところへ届ける世界を目指して、Tensor Energy 株式会社を創業。

期の会議をすることもあります。

都市と自然のメリハリがあり、最大でも30分の移動で環境をガラリと変えられるのは、福岡ならではの魅力ではないでしょうか。

それから、近代的な街並みの中に昭和レトロな商店街(新天町)があることも、天神で働く魅力の一つ。何十年も続く喫茶店や書店など新しい店舗がうまく交ざり合っているのが面白く、最新のオフィスビルで働きながら新天町で休憩するなど、街のギャップを楽しんでいます。

## 福岡で描く事業の未来

### 新しい視点が成長につながる

福岡での暮らしは、都市としての機能が充実している上に、気軽に山や海でのアウトドアを楽しめるので、私にとっては快適なものです。家から15分程度の移動で自然のアクティビティを堪能できるから、QOLは明らかに高まりました。

子育てに関しても、地域のコミュニティがあるから、子どもたちだけで遊びに出かけても不安はほとんどありません。キャッチボールを含めて自由にのびのびと遊べる環境があるのは、教育の観点からもとても優れていると思います。

また、経営者としても自然と暮らしが密接した福岡に身を置いたことで視野が広がりました。東京では得られなかった自然と暮らしの地続きの視点を生かし、さらなる事業成長も実現させたいです。

福岡で  
進化した  
私のQOL



ご近所からいただく  
とれたての魚  
豊かな自然と食から学ぶ

天神から30分。  
SUPやクルーズを楽しみながら  
クリエイティブな活動を。

オーシャンビューの  
コワーキング「SALT」で  
天神ワーカーの  
QOLを上げる

天神ワーカーから「ワーケーションに最適な場所」として支持されつつある、SALT。大企業のQOLを高める福利厚生として、スタートアップの自由な働き方として活用されているSALTは、一般的なコワーキングスペースと何が違うのか。代表の須賀大介氏に話を伺った。



移住者が支え合う場所から  
ワーカーがQOLを高める場所へ

天神から電車で揺られること約30分。人気リゾート地・糸島に隣接した今宿駅近くに、博多湾を一望できる絶景のコワーキングスペース「SALT」がある。SALTはもともと移住者がお互いを支え合う場として誕生した。

「リーマン・ショックと東日本大震災を経て、福岡への本社移転と家族の移住を決めました。縁もゆかりもない土地だったので、自分たち移住者にとって必要な場所としてSALTをつくったのが始まりです」(須賀氏、以下略)

2012年に福岡へ移住後、目の前に広がる海を眺めながら働き始めた須賀氏は、自身の価値観やアウトプットの変化、メンバーや家族を含めたQOLの高まりを徐々に感じるようになる。そこから移住者コミュニティのSALTは天神や大都市圏ワーカーのワーケーションの場としても拡大することになった。

ワークとライフの境目を曖昧に  
仕事の合間にSUPやヨガ、クルーズを

ワンフロアから始まったSALTは、現在7階建てビルの6フロアを運営中で、大企業を中心

とした法人会員や国内外のフリーランス、スタートアップがワーケーションや研修、合宿などで利用している。特筆すべきは、SALTは一般的なコワーキングスペースとは一線を画すこと。単に仕事をするだけでなく、海でSUPを楽しむ人、砂浜で海を眺めながら企画を練る人、ヨガでリフレッシュする人など活用法はさまざま。

「船で玄界灘をご案内することや、合宿利用者にジビエ料理を披露することもあります。仕事の間だけでなく、周囲の資源を活用してワークとライフの境目をなくすことで、新しいビジネスを生み出す“余白”を提供したいと考えています」

都心と自然の行き来が  
思いもよらないアイデアを生む

都心(天神)と自然(SALT)を行き来することの重要性は、徐々に浸透し始めている。特に、クリエイティブな仕事やゼロイチでつくり上げる新規事業は、オフィスの会議室よりも開放的なSALTで話し合ったほうが、思いもよらないアイデアを生むこともある。

「大手企業から『新規事業に関わるメンバー全員でSALTに行き、一人ひとりがやりたいことをフラットに考えることができました』『SALT

をベースにさまざまなフィールドワークを行ったことで、会議室では見えなかった地方の現状や生活者の実態がわかりました」といった声

が続々と届いています。新しいものを生み出す際にSALTを活用するというムーブメントが起き始めているのはうれしいです」

天神からSALTまでは電車でわずか30分。この近距離内に環境をガラリと変えられる場所があることは、天神ワーカーにとって大きな価値といえるだろう。

SALTの挑戦はコワーキングスペースにとどまらない。周辺にある9棟の空き家を活用した宿泊施設の運営や、今宿にある2つの公園の民営化・リニューアルなど、周辺エリアの新たな価値創出にも取り組んでいる。

「コワーキングから始まった事業は、宿泊施設やキャンプ場、公園に広がっています。今後はそれらをつなぎながら、博多湾全体を資源としたエリアマネジメントを展開することで、天神で働く人たちが移住者のQOLを高めていきたいです」



株式会社SALT代表  
須賀 大介



研修・合宿の場として、大手金融やディベロッパー、メーカー、航空会社などの大手優良企業もSALTを活用している。

Data

福岡市西区今宿駅前 1-15-18  
マリブ今宿シーサイドテラス 1~5F (受付1F)  
092-517-4321  
※見学・ドロップインは予約制  
(受付可能時間：平日 10:00~18:00)

# FACT SHEET

## 住みたい街ランキング (2025年)

福岡市は2020年から6年連続で住みたい街ランキングの1位を獲得。

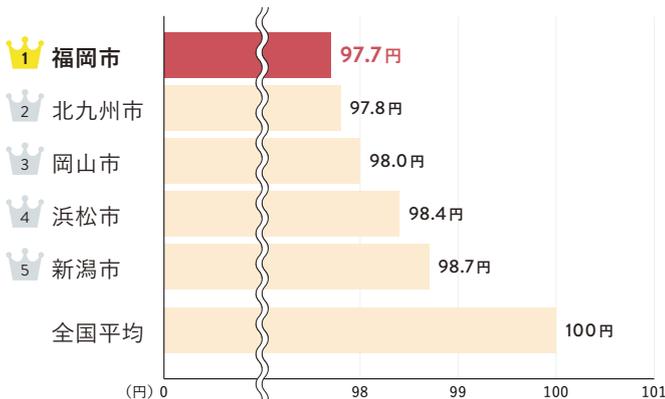
- 1 福岡市
- 2 那覇市
- 3 横浜市
- 4 仙台市
- 5 札幌市



資料：大東建託株式会社「いい部屋ネット 住みたい街ランキング2025<全国版>」

## 大都市の消費者物価地域差指数\*

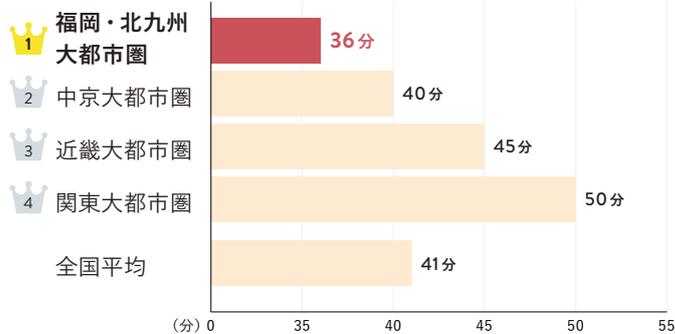
21大都市(政令指定都市及び東京都区部)のうち、総合物価の安さで福岡市が1位。



資料：『小売物価統計調査(構造編)』(総務省)  
 ※消費者物価地域差指数：世帯が購入する各種の財及びサービスの価格を総合した物価水準の地域間の差を、全国平均価格を基準(=100)とした指数値で表したものを示す。

## 通勤・通学時間の短さ

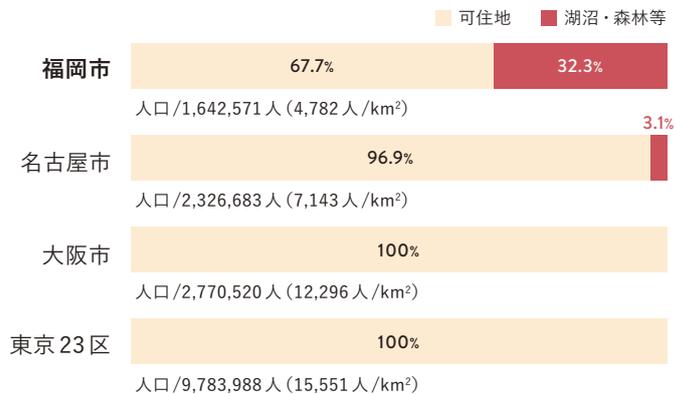
平日の通勤・通学における片道時間は、3大都市圏(関東・近畿・中京)と比べて短い。



資料：総務省『令和3年社会生活基本調査』調査票Aに基づく行動の種類別行動者平均時間\*  
 ※行動者平均：通勤・通学をしなかった人を除外して算出した平均値

## 可住地面積割合と全市人口密度比較

福岡市の可住地面積は67.7%で、残り32.3%は森林などの自然環境。都市の利便性を有しながら山や海を身近に感じられる。



資料：(公財)福岡アジア都市研究所(URC)

## 「暮らす・働く・遊ぶ」の全ての要素が凝縮

天神から電車や車で15分圏内にオフィスビルや空港、新幹線駅、文化施設があり、さらに30分圏内には海や島、山などの自然が広がる。都市と自然が近接・共生したバランスの良さが特徴。

- ① SALT(今宿)
- ② もち浜
- ③ 福岡タワー
- ④ みずほPayPayドーム福岡
- ⑤ 大濠公園
- ⑥ 海の中道海浜公園
- ⑦ 能古島
- ⑧ 福岡空港
- ⑨ 博多駅
- ⑩ 博多座
- ⑪ 福岡市美術館
- ⑫ 福岡アジア美術館
- ⑬ 天神のビル群  
(天神ビッグバンにより再開発が進む天神駅周辺のビル)

